

# 小学校生活

## 1 小学校生活科の指導と評価について

### (1) 生活科における主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善

#### ① 小学校学習指導要領第2章第5節生活の第3の1(1)より

年間や、単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、児童が具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自分と地域の人々、社会及び自然との関わりが具体的に把握できるような学習活動の充実を図ることとし、校外での活動を積極的に取り入れること。

「年間」

生活科の特質による固有のものであり、生活科の教科目標で示された「自立し生活を豊かにしていくための資質・能力」は、一つ一つの単元や年間を通した授業の積み重ねによって総合的に育成されていくこと。

「身近な生活に関わる見方・考え方」

身近な人々、社会及び自然を自分との関わりを捉え、よりよい生活に向けて思いや願いを実現しようとする。

「～を生かし」

生活科の学習過程において、子供自身がすでに有している見方・考え方を活用・発揮すること。

「自分と地域の人々、社会及び自然との関わりが具体的に把握できるような学習活動」

自分も地域の人々、社会及び自然の中で生活している者の一人であり、よりよい生活者になることを願って生活している者として、地域の人々、社会及び自然などを捉えること。

#### ② 小学校学習指導要領解説生活編における「深い学び」について

ア 「資質・能力」の育成のためには、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図る」ことが鍵となる。単に思いや願いを実現する体験活動を充実させるだけではなく、表現活動を工夫し、体験活動と表現活動とが豊かに行き来する相互作用を重視するなど、気づきの質を高めることを意識することが大切である。

イ 表現する活動は、気付いたことを基に考え、新たな気づきを生み出し、気づきの質を高める深い学びにもつながる。

ウ これまでの生活科の学習の課題として、学習活動が体験だけで終わり、活動や体験を通して得られた気づきを質的に高める指導が十分に行われていないという指摘があった。生活科における気づきの質を高めるという視点に立ち、気付いたことを基に考えることができるようになるための多様な学習活動を行うことが大切である。そのためにも「試す、見通す、工夫するなど」を新たに加え、一層の充実を図り、「深い学び」を実現することが期待される。

エ 気づきの質の高まりは、満足感、成就感、自信、やり甲斐、一体感などの手応えとなり、次の体験への安定的で持続的な意欲につながっていくことになる。生活科においては、気づきの質の高まりが深い学びであると捉えることができる。

オ 「身近な生活に関わる見方・考え方」を生かした学習活動が充実することで、気付いたことを基に考え、新たな気づきを生み出し関係的な気づきを獲得するなどの深い学びを実現するようにする。低学年らしいみずみずしい感性により感じ取られたことを、自分自身の実感の伴った言葉にして表したり、様々な事象と関連付けて捉えようとしたりすることを助けるような教師の関わりを実現していくことが大切である。

#### ③ 体験を深い学びにする

ア 伝える活動 無自覚→自覚 (はっきり)

イ 意見交換する活動 個別→関連付く (しっかり)

ウ 振り返る活動 自分自身の成長への気づき (くっきり)

### (2) 生活科における指導と評価の一体化

#### ① 体験と表現が繰り返される学習過程と指導と評価の一体化

#### ア 知識・技能

「気付きが自覚されること」「個別の気付きが相互に関連付くこと」「対象のみならず自分自身についての気付きが生まれること」を気付きの質の高まりとして見取ることが大切である。

#### イ 思考・判断・表現

見付ける、比べる、たとえる、などと示された分析的に考えることと、試す、見通す、工夫する、などと示された創造的に考えることを踏まえる。

#### ウ 主体的に学習に取り組む態度

「粘り強さ」「学習の調整」「実感や自信」などを踏まえる。

→ 評価規準に盛り込む要素や文章構造さえ理解できれば、教師が、実態に即した信頼性や妥当性のある評価規準を作成することができる。

→ 評価規準を設定した上で、その評価規準における具体的な児童の姿を想定する。

### (3) 生活科改訂の主旨及び要点

- |                         |                 |
|-------------------------|-----------------|
| ① 低学年らしい思考や認識，次の活動へつなげる | ② 低学年教育の充実      |
| ③ 学校全体で取り組むスタートカリキュラム   | ④ 社会科や理科，総合への接続 |

## 2 小学校生活科における1人1台端末の活用について

### (1) GIGA スクール構想のもとでの生活科の指導について

#### ① 生活科の指導においてICTを活用する際のポイント

##### ア 低学年児童の特性，生活科の特質に応じて活用する

- ・ 対象（身近な人々，社会及び自然）を自分との関わりで一体的に捉える，直接関わる活動や体験を好む，など（低学年児童の特性）
- ・ 身近な人々，社会及び自然と直接関わる活動や体験を重視し，児童の思いや願いを生かし，主体的に活動できるようにする，など（生活科の特質）

##### イ ICT 端末の特質を踏まえる

- ・ 学習対象と教室を静止画・動画でつなぐ
- ・ 音で学習環境をつくる
- ・ 教育資源と教室を通信でつなぐ
- ・ 静止画や動画などの情報を，いつでも，どこでも，繰り返し振り返って学習を深める
- ・ 児童一人一人が保存・蓄積した情報で，児童同士の対話を促す，など

→ 低学年児童の発達の段階や特性を十分配慮して，資質・能力の育成に向けて効果が上がるよう，より一層，計画的にICT 端末を取り入れることが重要である。

## 3 学校における動物飼育について

### (1) 継続的な飼育・栽培を行うことの意義

長年にわたる飼育・栽培の過程では，(略)しかし，児童の取り巻く自然環境や社会環境の変化によって，日常生活の中で自然や生命と触れ合い，関わり合う機会は乏しくなっている。(略)継続的な飼育・栽培を行うことには大きな意義がある。(解説 p. 43)

### (2) 学校における望ましい動物飼育のあり方

- |                        |                               |
|------------------------|-------------------------------|
| ① 管理や繁殖，施設や環境などについての配慮 | → 地域の専門家や獣医師などの多くの支援者と連携      |
| ② 休日や長期休業中の世話          | → 児童や教師，保護者，地域の専門家などによる連携した取組 |
| ③ 外来生物等の取扱いには十分配慮      | ④ 感染症などの病気の予防に努める             |
| ⑤ 児童のアレルギーへの配慮         |                               |

## 4 参考となる資料等について

(1) 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 生活編（文部科学省 平成29年7月）

(2) 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校生活

(国立教育政策研究所教育課程研究センター 令和2年3月)